

平成 26 年度
全国学力・学習状況調査
結果報告

川西市教育委員会

目 次

平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査対象児童生徒
- (3) 調査内容について
 - ① 実施教科等
 - ② 実施日
 - ③ 実施時間
 - ④ 実施人数
- (4) 調査結果の見方
- (5) 平成 26 年度教科に関する調査結果の概要
【小学校国語】【小学校算数】【中学校国語】【中学校数学】
 - ① 教科全体の平均正答率
 - ② 度数分布図
 - ③ 領域・事項別の平均正答率
- (6) 過去 5 回の調査結果の推移
- (7) 平成 26 年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要
- (8) 平成 25 年度からの取り組みの成果と課題
- (9) 今後の取り組みについて

平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

(平成 26 年度実施要領より)

(2) 調査対象児童生徒

川西市立小学校 第 6 学年児童

川西市立中学校 第 3 学年生徒

(3) 調査内容について

① 調査内容

《教科に関する調査》(国語、算数・数学)

● 国語、算数・数学

A：主として「知識」に関する問題

- 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

B：主として「活用」に関する問題

- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力

《生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査》

● 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

● 学校に対する調査

指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

② 実施日

平成 26 年 4 月 22 日 (火)

③ 実施時間

● 小学校

1 時限目 (45 分)	2 時限目 (45 分)	3 時限目 (45 分)	
国語A(20分) 算数A(20分)	国語B(40分)	算数B(40分)	児童質問紙 (20分程度)

※ 児童質問紙は、4 時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

● 中学校

1 時限目 (50 分)	2 時限目 (50 分)	3 時限目 (50 分)	4 時限目 (50 分)	
国語A (45分)	国語B (45分)	数学A (45分)	数学B (45分)	生徒質問紙 (20分程度)

※ 生徒質問紙は、5 時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

④ 実施人数

小学校	国語A・B	算数A・B	児童質問紙
第6学年児童	1,505名	1,505名	1,505名
中学校	国語A・B	数学A・B	生徒質問紙
第3学年生徒	1,406名	1,404名	1,406名

(4) 調査結果の見方

※ 調査結果で示している平成 26 年度の川西市の数値は、平成 26 年度全国学力・学習状況調査において、本市小学校、中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均を表したものです。

※ ここでいう「全国平均」とは、上記同様に、平成 26 年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の小中学校（公立学校）在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均を表したものです。

※ 分析の際の基準の考え方

- 本市児童生徒と全国平均との比較は、次を基準としています。

+1.0%以上（良好）、±0.9%（概ね良好）、-1.0%以下（課題がある）

- 各教科の領域・事項については、問題数により平均正答率の差が大きくなることから、次を基準としています。

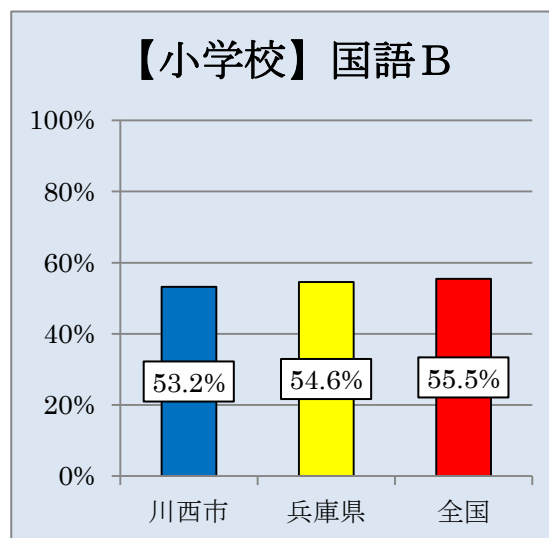
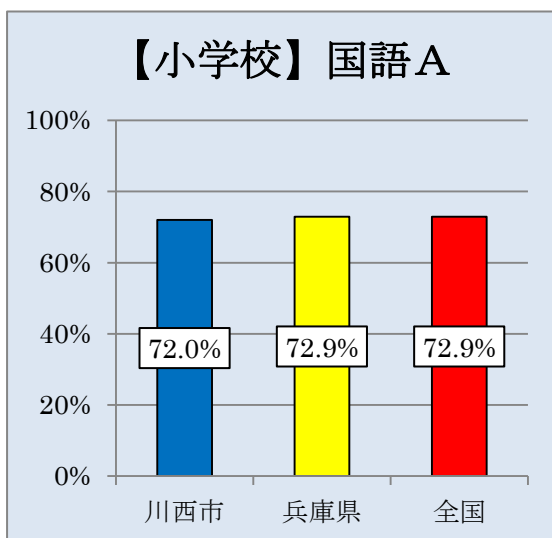
+5.1%以上（上回る）、±5.0%（同程度）、-5.1%以下（下回る）

(5) 平成 26 年度教科に関する調査結果の概要

【小学校国語】

①教科全体の平均正答率

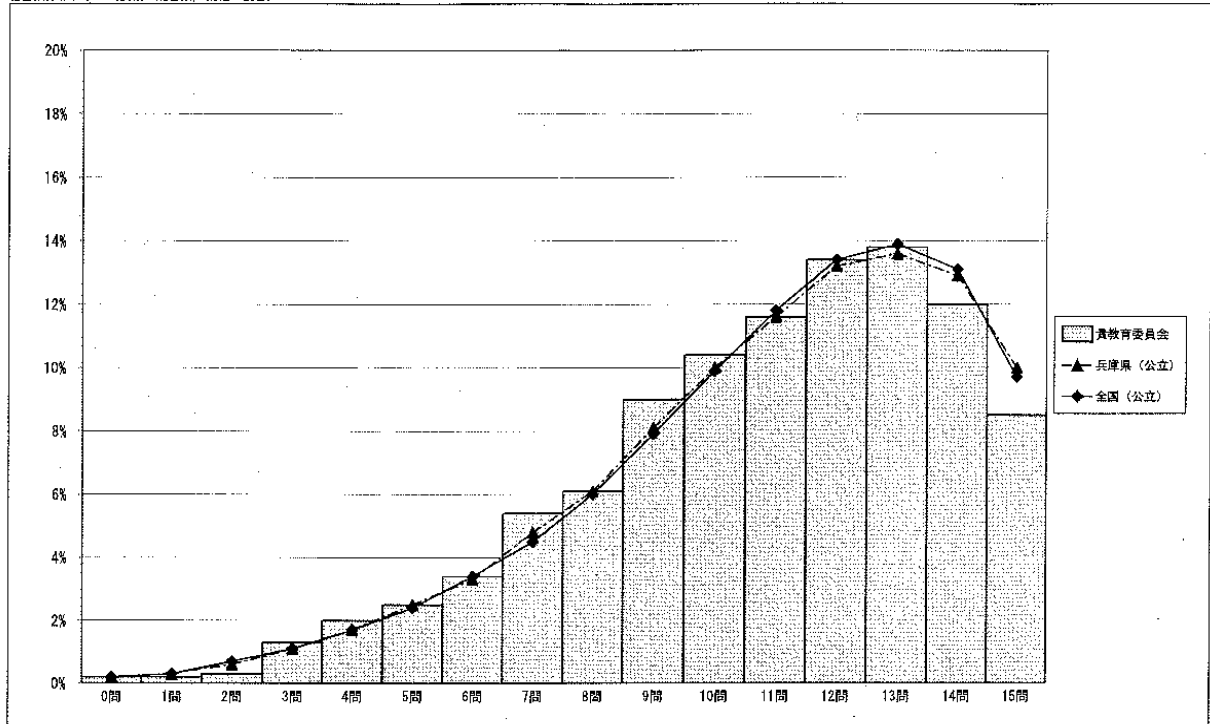
川西市の平均正答率を全国と比較すると、国語 A（知識）は、0.9 ポイント低いですが、国語 A は概ね良好であるといえます。国語 B（活用）は、2.3 ポイント低く、国語 B は課題があるといえます。



②度数分布図

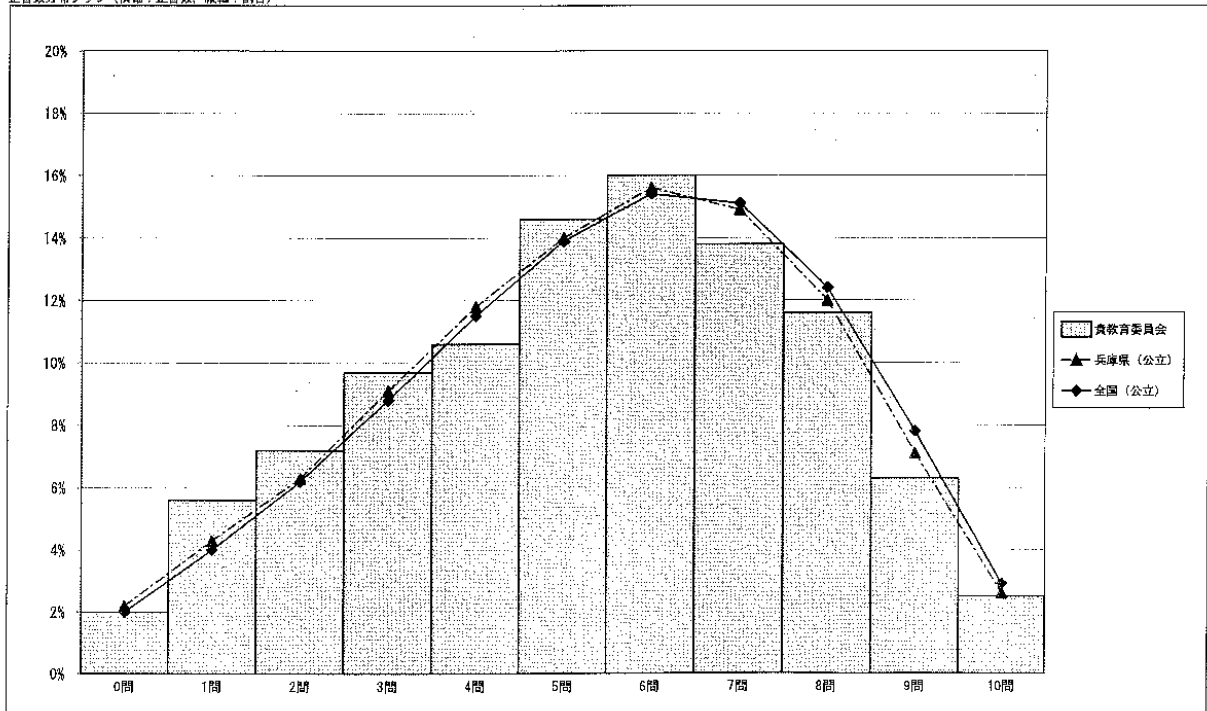
国語 A

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



国語 B

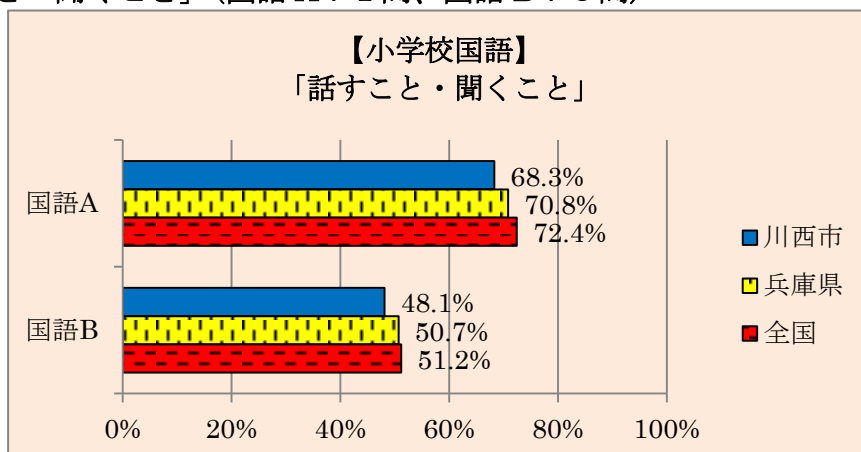
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



③領域・事項別平均正答率

◇：概ね理解している内容 ◆：課題のある内容 記号は、A：国語A B：国語B

「話すこと・聞くこと」（国語A：1問、国語B：3問）



川西市の「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は、4.1ポイント低く、全国と同程度という結果です。国語B（活用）は、3.1ポイント低く、全国と同程度という結果です。

◆（A）話し合いの観点に基づいて、情報を関係付けることができる。

①目的に応じて、観点を整理する

目的や意図に応じて計画的に話し合うために求められることは、発言内容をよく聞き、考えの中心となることを捉えられるようにすることが大切です。

②質問の意図を捉える

話し合いを計画的に進め、一定の結論に導いていくためには、互いの立場や意図を明確にして質問をし合うことが重要です。以下のようなものが挙げられます。

＊ 相手の主張の内容と自分の主張の内容との共通点や相違点を知ろうとする質問例

「私は、～について…と考えています。Aさんの考えと同じ（違う）ところは〇〇という点です。」

＊ 相手の主張に対する自分の考えについて感想などを求めようとする質問例

「〇〇さんの考えについて、私は、～と考えました。このような私の考えについてどう思いますか。」

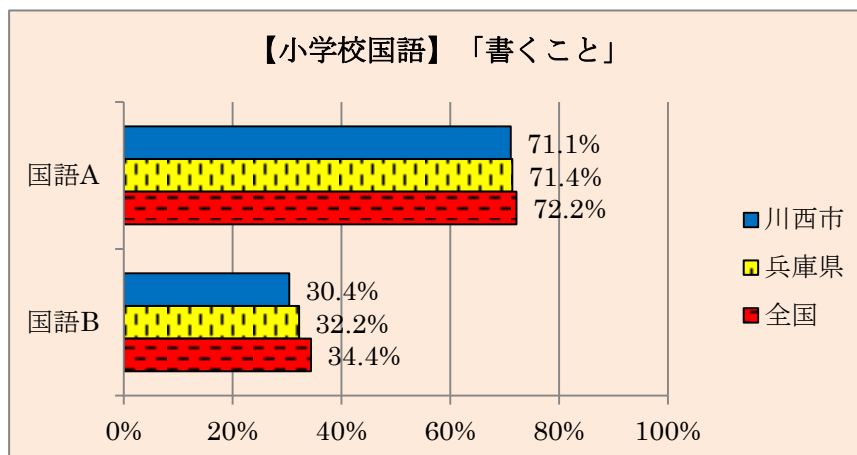
＊ 相手の主張の中に理由が述べられていないことを明らかにしようとする質問例

「Aさんは「…」と言いましたが、そう考えた理由は、どのようなことですか。どのような点から（どうして）そう思ったのですか。」

◆（B）立場を明確にして、質問や意見を述べることができる。

話し手の発言内容の中から、中心となる考え、理由や根拠などを、短い言葉で要約してメモなどに書き留めることが有効です。また、具体的な例を示したりする際に、本や文章、話の内容などから必要な語句や文を抜き出して、自分の表現に取り入れることで、より説得力のある意見をまとめることができるようになります。

「書くこと」(国語A: 3問、国語B: 3問)



川西市の「書くこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A(知識)は、1.1ポイント低く、全国と同程度という結果です。国語B(活用)は4ポイント低く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 情景描写の効果を捉えることができる。

情景描写の効果を捉えることについては、概ね理解できています。物語の表現の特徴とその効果について捉えることは、重要です。物語などの文学的な文章を読むことの授業において、描写の工夫(行動や表情、会話(内言)、風景など)の効果を理解することだけでなく、登場人物の心情などについて、直接的に描写されているものだけでなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるように、継続的な指導の取り組みが必要です。

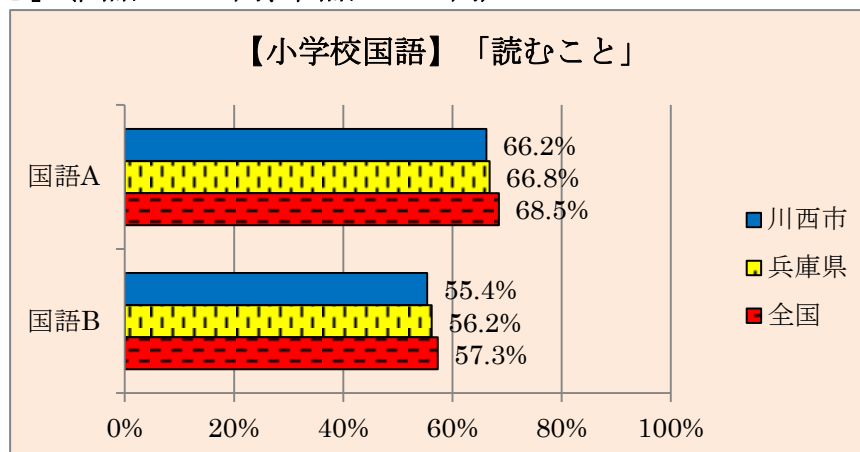
◆ (B) 自分の考えを書くこと・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書くことができる。

分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書くことについて、川西市平均正答率は22.7%(全国比-4.2%)であり、課題があります。

文や文章の構成を整えて書くためには、語句と語句との係り方や照応の仕方に気付き、文と文とのつながりの明確さを意識することが重要です。そのためには、語句の意味を正しく捉えることや、接続語の役割について理解することができるように指導することが大切です。具体的には、次のような各学年の発達段階を踏まえた指導が考えられます。

- ★ 第1・2学年では、語句と語句との係り方を確実に指導し、語句の意味を正しく捉え、表現することができるようにする。
- ★ 第3・4学年になると、文と文とのつながりの明確さを意識し、接続語の役割について理解したり、使ったりすることができるようにする。
 - ★ 第5・6学年では、語句と語句との係り方や照応に気付き、いろいろな文の構成があることについて理解できるようにする。

「読むこと」(国語A: 2問、国語B: 7問)



川西市の「読むこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は、2.3ポイント低く、全国と同程度という結果です。国語B（活用）は、1.9ポイント低く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 物語の登場人物の相互関係を捉えることができる。

物語の登場人物の相互関係を捉えることについて、川西市平均正答率は、66.1%（全国比+0.8%）であり、概ね理解しています。

◆ (A) 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えることができる。

新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えることについて、川西市平均正答率は66.3%（全国比-5.4%）です。投書を読むときには、新聞や雑誌などに読者がテーマや身近な問題について考えたり感じたりしたことを述べた意見文であるといった投書の特徴を理解することが重要です。

◆ (B) 課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むことができる。

課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むことについて、学校図書館などを活用した本の配置や種類についての知識、目的に合わせた本の選び方、目次や索引、百科事典の背表紙の使い方、資料として活用したい内容の取り上げ方など、発達段階に応じて本や文章の活用の仕方を身に付けることができるように指導することが重要です。

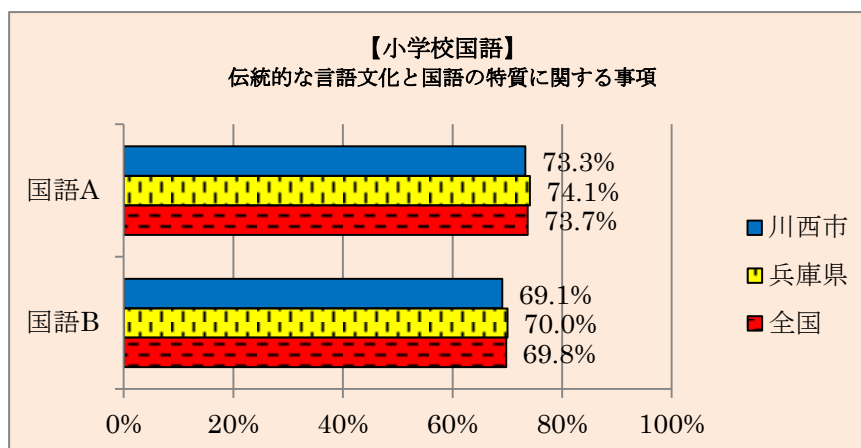
[第3学年・第4学年]

- ・ 関心のあることなどから調べることを決める。
- ・ 百科事典や図鑑、科学に関する本や文章などを使って調べる。
(図書館の本の配置、本の種類や題名、目次や索引、百科事典の背表紙の使い方)
- ・ 必要な部分に付箋を貼ったり、大事な内容をメモに取ったりする。

[第5学年・第6学年]

- ・ 家庭や地域、学校生活での学習で感じたり考えたりしたことから、調べることを決める。
- ・ 目的に応じて複数の本や文章を選び、調べる。
(必要な文や語句の書き抜き、要約、引用、付箋を貼る、メモを取る)
- ・ 集めた資料を比べたり関連付けたりしながら考えを深める。
(取り出した情報をまとめた付箋やメモなどを、構造化して並べ換える)
- ・ 自分の考えやその理由、具体的な根拠を整理する。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(国語A：12問、国語B：2問)



川西市の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は、0.4ポイント低く、全国と同程度という結果です。国語B（活用）は、0.7ポイント低く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む・書くことができる。

本市における「漢字を読む」設問では、一(1)「道路の標識(ひょうしき)を見る」の正答率は94.6%(全国比+2.9%)、一(2)「街灯(がいとう)がつく」の正答率は88%(全国比+1.0%)、「漢字を書く」設問では、二(1)「料理をのせたさら(皿)を運ぶ」の正答率は98.5%(全国比+0.7%)、二(2)「勝利をいわう(祝う)」の正答率は62.4%(全国比+3.1%)、二(3)「かぜをよぼう(予防)する」の正答率は80.0%(全国比+2.6%)であり、相当数の児童ができています。

◆ (A) 故事成語の意味と使い方を理解することができる。

故事成語の意味と使い方を理解することができるかどうかをみる設問において、「五十歩百歩」については、本市正答率は49.6%(全国比-6.2%)であり、指導の充実が求められます。同様に、「百聞は一見にしかず」についても、本市正答率は45.8%(全国比-4.1%)であり「一を聞いて十を知る」との区別が付かず、誤って解釈した誤答が目立っていました。

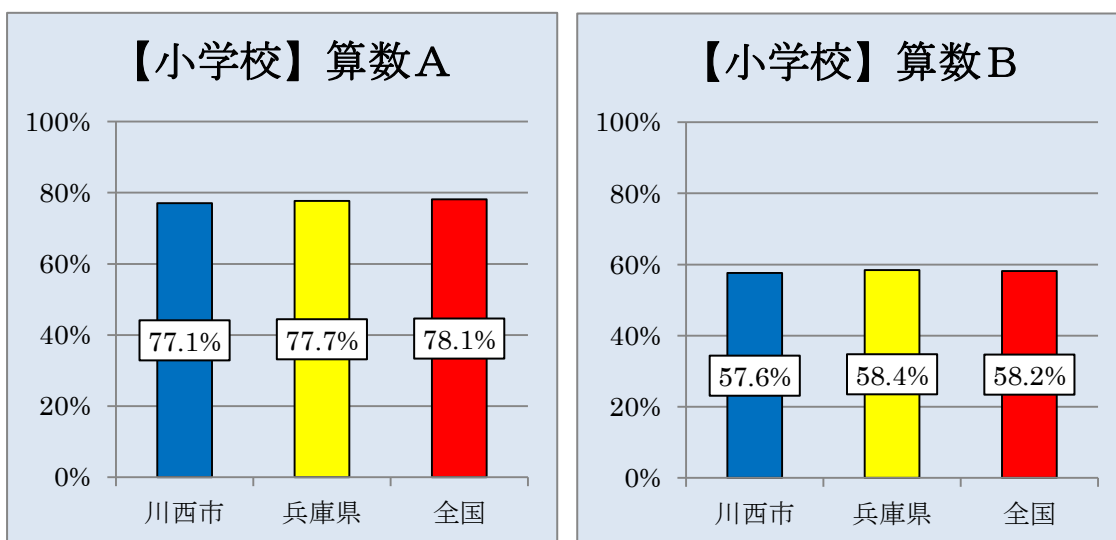
学習指導に当たっては、故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で起こる出来事や、その様子を故事成語を用いて表す等の学習活動が重要です。そのためには、故事成語に興味をもち、その意味を調べてカードに記録するなど、先人の知恵や教訓、機知に触れる機会を増やし、その上で、実生活の中で意図的に活用する場を設定するなど、計画的に指導することが重要です。

また、家庭学習において、故事成語やことわざ、慣用句の意味調べや短文づくりに継続して取り組むことも有効な方法です。

【小学校算数】

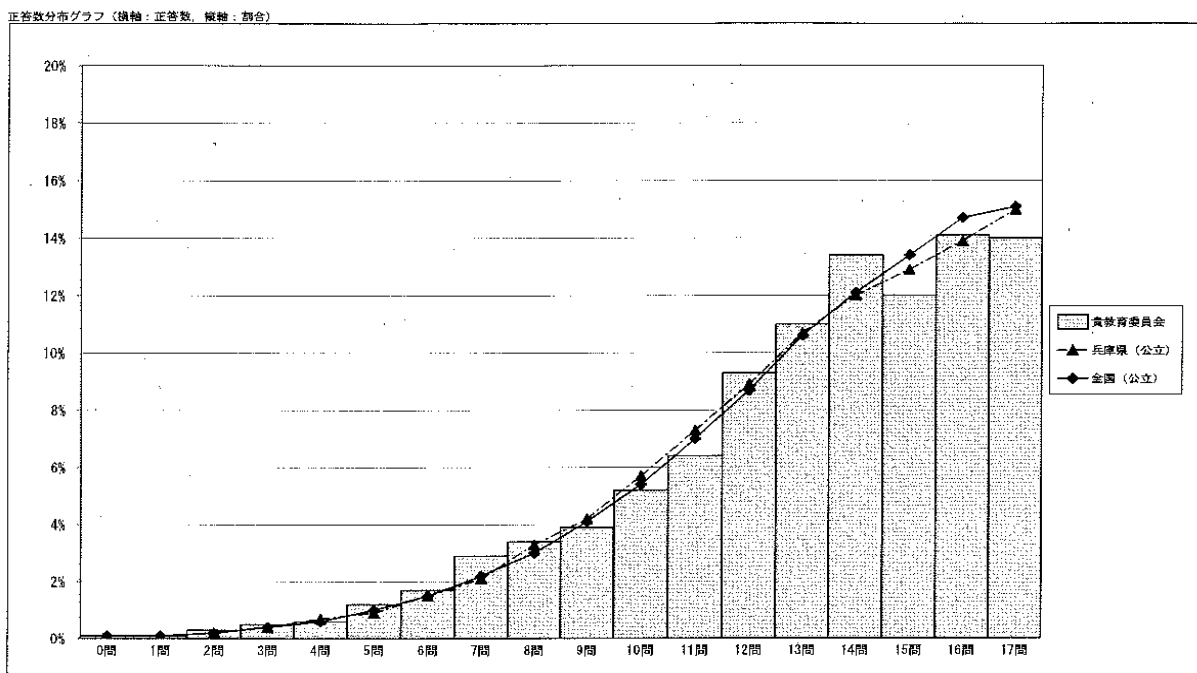
①教科全体の平均正答率

川西市の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）は 1.0 ポイント低く、算数Aは課題があるといえます。算数B（活用）は 0.6 ポイント低いですが、算数Bは概ね良好であるといえます。

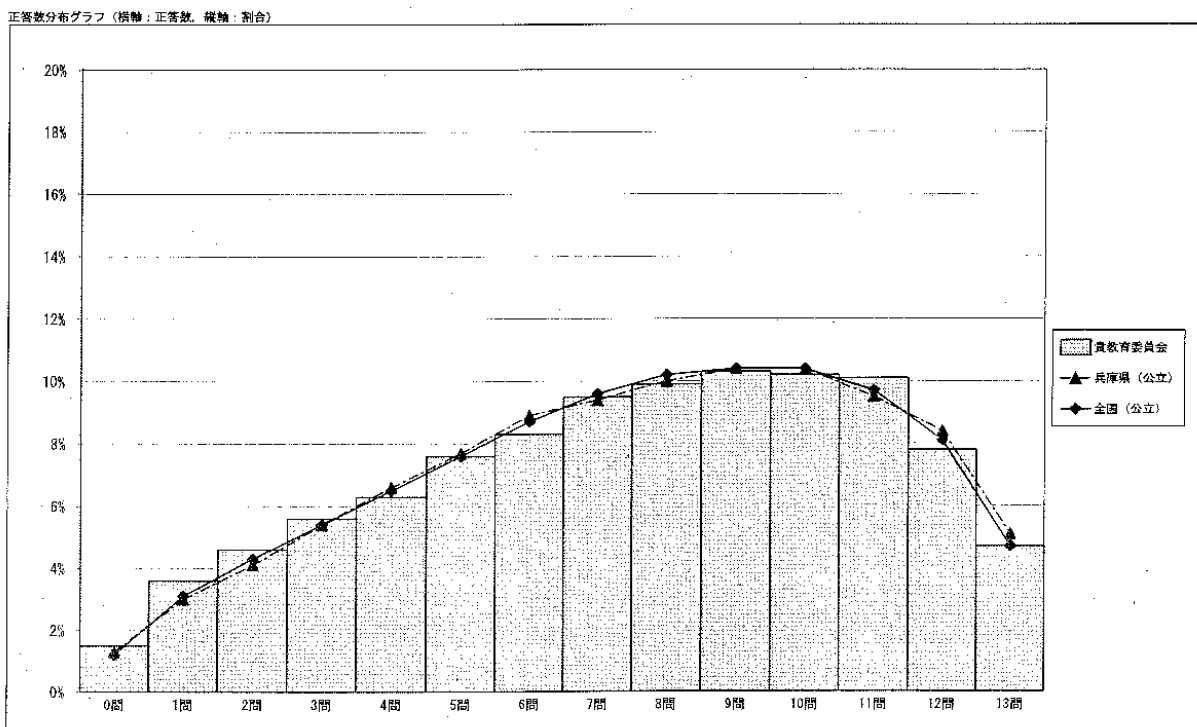


②度数分布図

算数 A



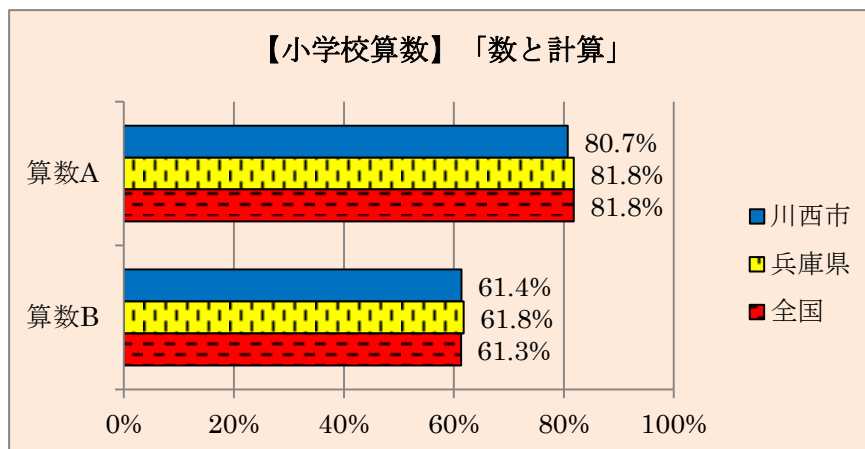
算数 B



③領域・事項別平均正答率

◇：概ね理解している内容 ◆：課題のある内容 記号は、A：算数A B：算数B

「数と計算」（算数A：8問、算数B：8問）



川西市の「数と計算」領域の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）は、1.1ポイント低く、全国と同程度という結果です。算数B（活用）は、0.1ポイント高く、全国と同程度という結果です。

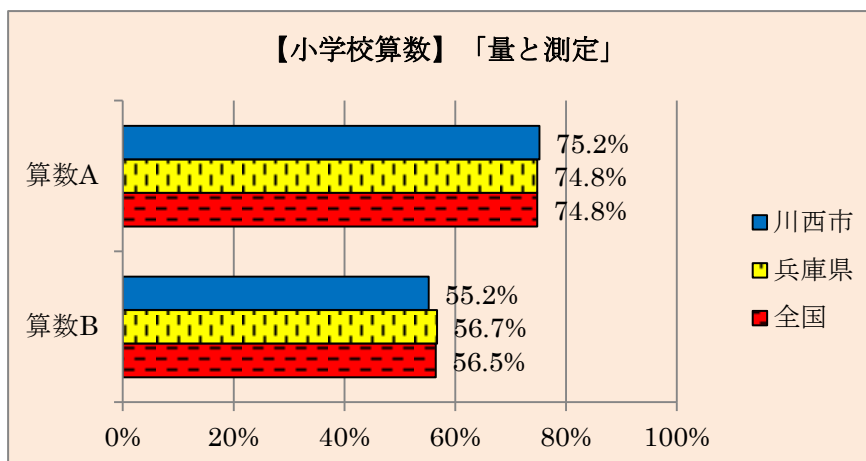
◇（A）整数、小数、分数の計算を行うことができる。

加法、乗法、除法の計算に関しては、相当数の児童ができています。その中で、小数第1位までの減法の計算「 $9-0.8$ 」、減法と乗法の混合した整数の計算「 $100-20\times 4$ 」に少し課題が見られました。「 $9-0.8$ 」は、「0.1」と解答する児童がいて、位をそろえずに計算をしたものと考えられます。「 $100-20\times 4$ 」は、「320」と解答しているものが多く、減法と乗法の混合した計算にもかかわらず、式の左の「 $100-20$ 」から順に計算していると考えられます。位をそろえて確実に計算することや、乗法を先に計算した場合と減法を先に計算した場合を比較して、式のどの部分から計算するかによって計算結果が異なることを理解することが大切です。

◆（B）示された情報を整理・解釈し、解答に関係する図を選択したり、筋道を立てて解の求め方を記述することができる。

根拠となる事柄を過不足なく示し、理由を記述により説明することについて、依然課題があるものの、記述問題に関する平均無回答率が、平成25年度およそ11%ほどあったものが、平成26年度7%となり改善の状況がみられます。筋道を立てて考えた過程について、全員が自分の考えを記述する場面を設定すること、説明（表現）する活動を、授業に積極的にとり入れることが大切です。

「量と測定」(算数A：3問、算数B：5問)



川西市の「量と測定」領域の平均正答率を比較すると、算数A(知識)は、0.4ポイント高く、全国と同程度という結果です。算数Bは、(活用)1.3ポイント低く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 体積の単位 (cm³) と測定について理解している。

体積の単位 (cm³) と測定について、直方体の体積の測定について理解することは、相当数の児童が理解しています。

◆ (B) 全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる。

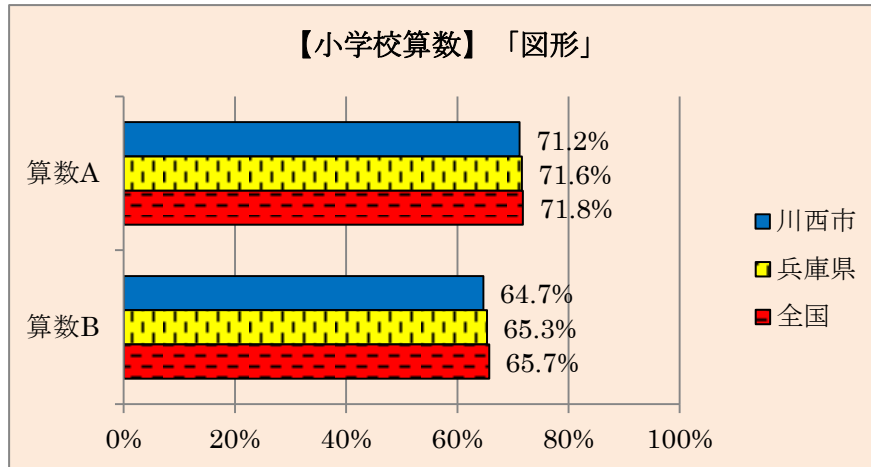
◆ (B) 示された情報をもとに量の大小を判断し、理由を記述することができる。

示された資料から、問題の解決に必要な量を選択したり読み取ったりして根拠となる事実を捉え、言葉や式、図、表、グラフなどの表現を関連付けることに課題があります。

問題を解決した過程を他者に説明する際には、問題から必要になる情報を選択するとともに、情報を関連付けて、根拠となる事実や判断の理由を明確に表現することが大切です。また、目的に応じて、適切な表やグラフを選択したり、表したり、読み取ったり判断したりする活動を通じて、表やグラフを算数の学習のみならず、他教科等の学習や生活に活用できることが大切です。

指導に当たって、例えば、一つの問題に対して、4つのグラフ(絵グラフ・棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ)を提示し、目的に応じたグラフを選択したり、それぞれのグラフから読み取れることを確認するなどの活動が考えられます。このような活動を通じて、絵グラフや棒グラフは「数量の大きさやちがひ」、折れ線グラフについては、「数量の変化」、円グラフは「全体と部分の関係」等、グラフがもつ特徴が明確になってきます。

「図形」(算数A：4問、算数B：1問)



川西市の「図形」領域の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）は、0.6ポイント低く、全国と同程度という結果です。算数B（活用）は、1.0ポイント低く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる。

円周の長さを、直径の長さを用いて求めることについては、相当数の児童が理解しています。

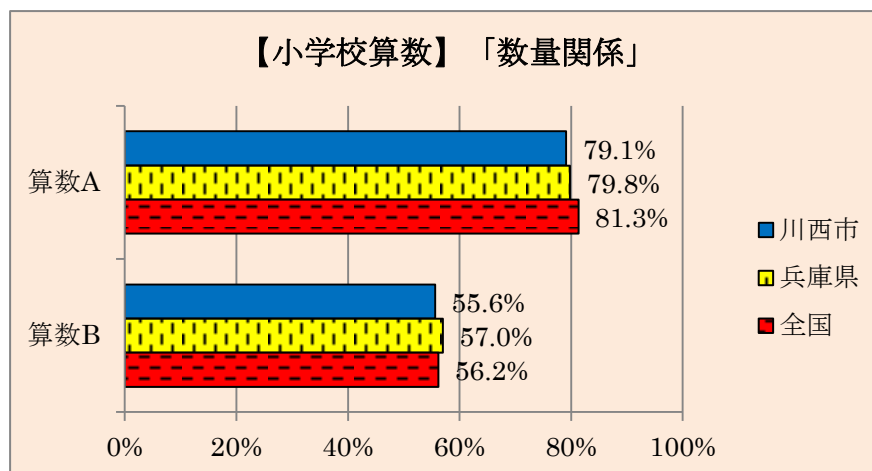
作図に用いられる図形の約束や性質を理解することについては、本市正答率は54.1%（全国比+2.1%）です。作図の指導において、用いる道具の操作と、その意味とを関連付けて理解することが、図形の約束や性質についての理解を深める上で大切です。そのため、かき方の指導とあわせて、作図を通して図形の理解を深めることを意識することが必要です。

◆ (A) 立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解することができる。

立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係については、本市平均正答率63.1%（全国比-6.3%）です。見取図・展開図は、立体図形を平面に表現するための方法です。これら立体図形、見取図、展開図を別々のものとして扱うのではなく、立体図形を見取図や展開図で表したり、見取図や展開図から立体図形を考えたりすることが大切です。その際に、具体物の操作や作成を通して考えたりする活動は有効的です。

具体物を用いて自分の考えを表現する活動から、図と言葉を関連させ説明する学習へと、発達段階に応じた系統的な指導の充実が大切です。

「数量関係」(算数A：3問、算数B：5問)



川西市の「数量関係」領域の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）は、2.2ポイント低く、全国と同程度という結果です。算数B（活用）は、0.6ポイント低く、全国と同程度という結果です。

- ◇ (A) 二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができる。
- ◆ (A) 四則の混合した式の意味について理解することができる。

四則の混合した式の計算については、繰り返し出題されています。

問題番号	問題の概要	川西市平均正答率 (全国)
H19 A1 (7)	$6+0.5\times 2$	70.3% (69.1%) ↑
H20 A1 (5)	$3+2\times 4$	72.1% (71.1%) ↑
H21 A1 (6)	$80-30\div 5$	↓ 65.4% (67.0%)
H22 A1 (6)	$50+150\times 2$	↓ 56.5% (66.3%)
H26 A1 (5)	$100-20\times 4$	↓ 75.5% (80.9%)

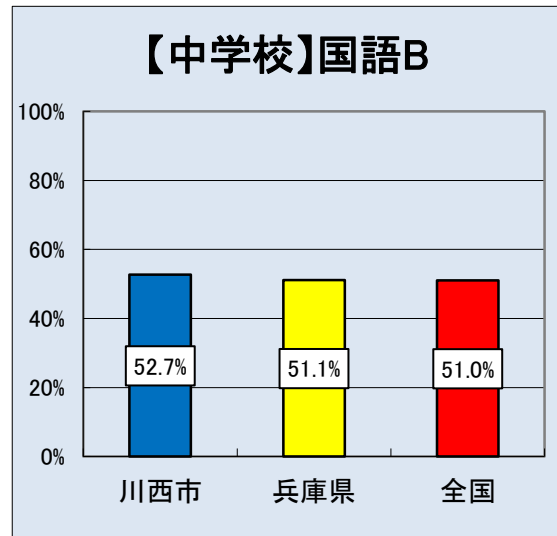
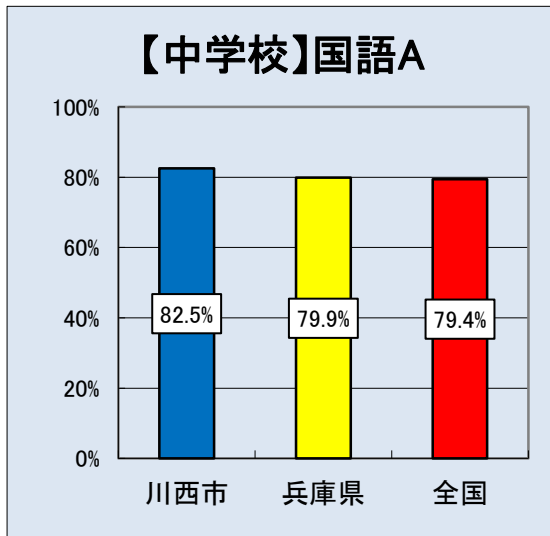
計算の順序のきまりなどを理解し、正しく計算することについての理解をより一層深めるために、乗法と加法・減法の混合した計算だけでなく、除法と加法・減法の混合した計算など、四則の混合した様々な計算をする機会を設けて、繰り返し指導する必要があります。

算数B（活用）「数量関係」に該当する設問は5問で、その内、3問が記述式となっています。日常の事象を算数の内容と関連付け、学習した用語を用いて表現することが大切です。指導にあたっては、普段の授業から、児童の表現を算数の用語を用いて表現し直すことが考えられます。例えば、12は、「4と6の最小公倍数」、「10と2を合わせたもの」、「4の3倍（倍数）」、「半分にすると6（約数）」とみるなど、一つの数をほかの数と関連付けることを通して、数についての感覚を養うことが大切です。

【中学校国語】

①教科全体の平均正答率

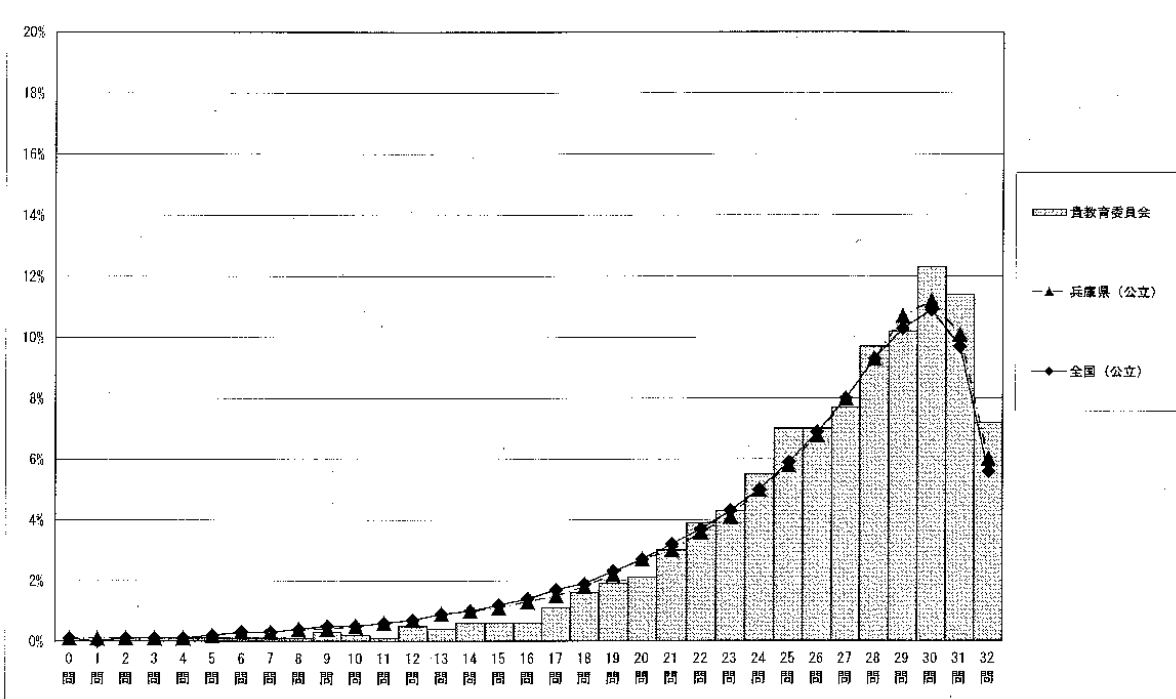
川西市の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は、3.1ポイント高く、国語Aは良好であるといえます。国語B（活用）は1.7ポイント高く、国語Bは良好であるといえます。



②度数分布図

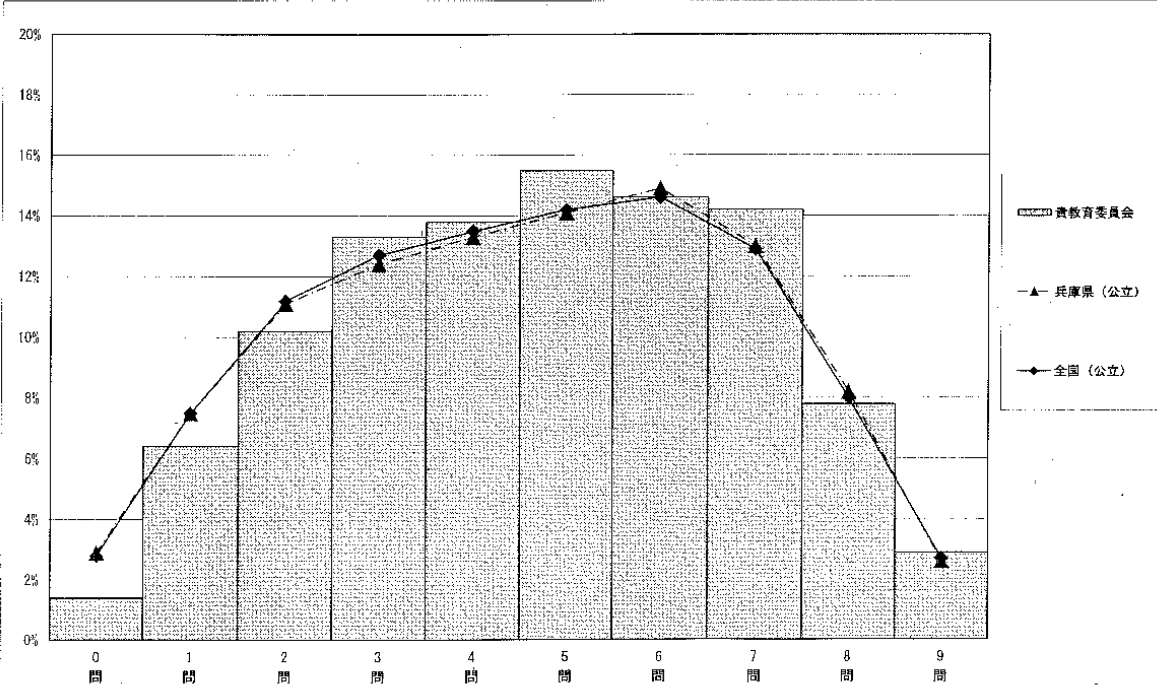
国語 A

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



国語 B

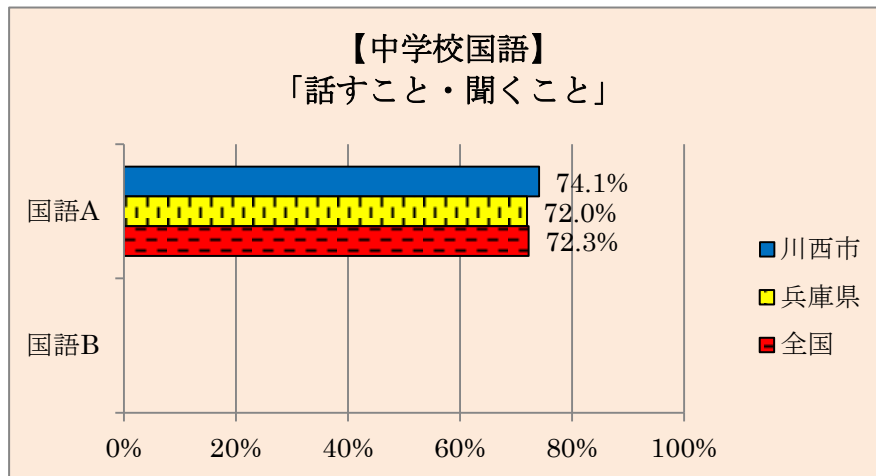
正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



③領域・事項別平均正答率

◇：概ね理解している内容 ◆：課題のある内容 記号は、A：国語A B：国語B

「話すこと・聞くこと」（国語A：4問、国語B：0問）



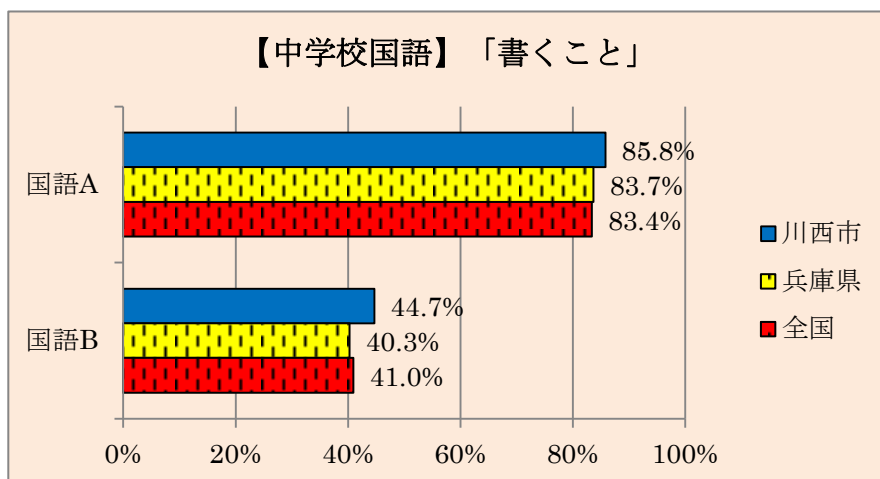
川西市の「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は、1.8ポイント高く、全国と同程度という結果です。国語B（活用）は、「話すこと・聞くこと」に関する設問はありません。

◇（A）話の概要について聞き取ることができる。

必要に応じて質問したり、足りない情報を聞き出しながら、文章や話し合いの中で、お互いの発言を検討して自分の考えを広げることは理解できています。

話し合いをする際には、参加者全員が話し合いの目的を理解し、話し合いがまとまるように見通しをもつ必要があります。そのためには、発言内容をきちんと聞くこと、司会は目的に応じて話し合いの方向性を適切に捉え、結論に至るまでに踏むべき段階を参加者と確認することが大切です。授業の中で行われる話し合い活動の中でも、見通しをもったり、話し合いの進行が適切であったかを振り返ったりする場面を設定することが有効です。また、複数の案から一つに絞り込む話し合いを行う際には、例えば、図表を用いるなどして、共通点や相違点など様々な観点に沿って発言を整理する学習活動も効果的です。

「書くこと」(国語A：6問、国語B：3問)



川西市の「書くこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は、2.4ポイント高く、全国と同程度という結果です。国語B（活用）は、3.7ポイント高く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換えることや、心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書くことができる。

「語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換えること」に関して、本市平均正答率は83.7%（全国比+3.9）、「心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書くこと」に関して、本市平均正答率は92.6%（全国比+1.7）であり、相当数の生徒が理解できています。登場人物の心情が効果的に伝わるように、比喩などを使って表したり、風景や天候などの情景描写を通して表したりするなど、描写を工夫して書く学習を継続的に行っていきます。

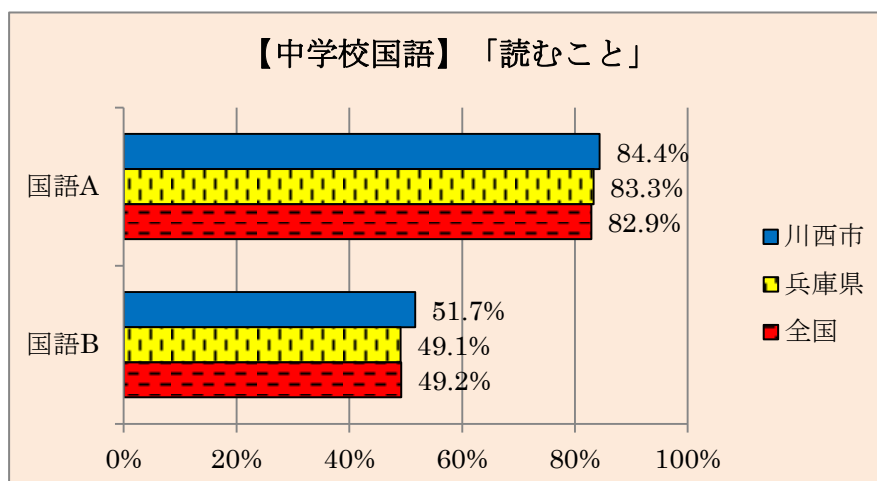
◇ (A) 集めた材料を分類するなどして整理することができる。

「集めた材料を分類するなどして整理する」設問に対して、本市平均正答率95.6%（全国比+3.0）であり、相当数の生徒が理解しています。相手や目的などを意識し、集めた材料を分類して整理することについては定着していることが確認できます。

◆ (B) 根拠を明確にして、自分の考えを書くことができる。

伝えたい事実や事柄が伝わるように、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があります。しかし、全国との平均正答率と比較すると、2～8%高い結果です。筋道を立てて考えた過程について、自分の考えを記述する場面を設定すること、説明（表現）する活動を、授業に積極的にとり入れることが大切です。また、学習活動により得られた知識は、他の人に向けて説明することで一層明確になるとともに定着が図られます。学習の振り返りを行う際に、目当てに対する達成度を文章でまとめる活動などを継続して行うことは効果的です。

「読むこと」(国語A：5問、国語B：8問)



川西市の「読むこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は、1.5ポイント高く、全国と同程度という結果です。国語B（活用）は、2.5ポイント高く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することができる。

登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することは、相当数の生徒が理解しています。物語や小説などを読むときには、特に、山場などで心情の変化を丁寧に考えることが大切です。山場の前後の出来事に対する主人公の言動を取り上げて、その時々的心情を表に整理するなどして変化を読み取る学習は有効です。

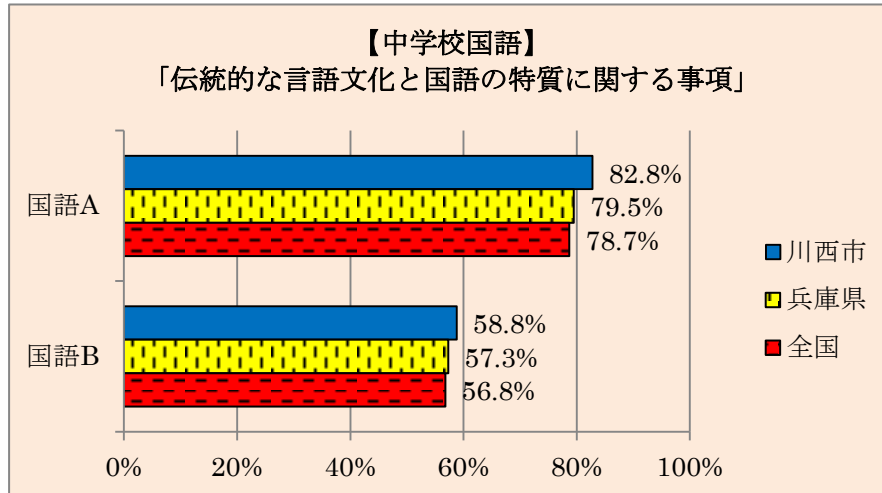
◇ (A) 文脈の中における語句の意味を理解することができる。

文脈の中における語句の意味を理解することも、相当数の生徒が理解できています。文学的な文章で使われる語句を理解するためには、辞書にある語句の基本的な意味を踏まえ、文脈に即して効果を捉えることが大切です。

◆ (B) 複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることができる。

目的に応じて文章の要旨を的確に捉えるためには、文書の特徴を踏まえて内容を正確に理解する必要があります。例えば、説明文を読んで、さらに調べたい内容を明確にしたうえで、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動が有効です。その際、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けることが、必要な情報を正しく得ることに繋がります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(国語A：17問、国語B：4問)



川西市の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語Aは4.1ポイント高く、全国と同程度という結果です。国語Bは、2.0ポイント高く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 文脈に即して漢字を正しく読むことができる。

本市における「漢字を読む」設問では、8二(1)「アユの稚魚(ちぎょ)を放流する」の正答率は82.9%(全国比+5.9%)、8二(2)「このホールは音響(おんきょう)効果が良い」の正答率は96.2%(全国比+7.6%)、8二(3)「新記録に挑(いど)む」の正答率は97.9%(全国比+2.7%)、であり、相当数の生徒ができています。

◇ (A) 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる。

適切な語句を選択する設問に関して、本市の平均正答率は90.0%を超えており、相当数の生徒が理解ができています。辞書を活用して難語句を調べる際には、文脈に沿って語句の意味を選び、それが文中の意味として適切かどうかを確認する指導を継続的に行うことが大切です。

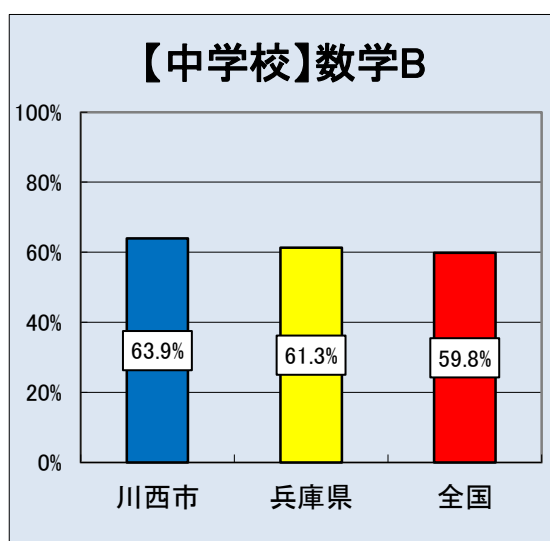
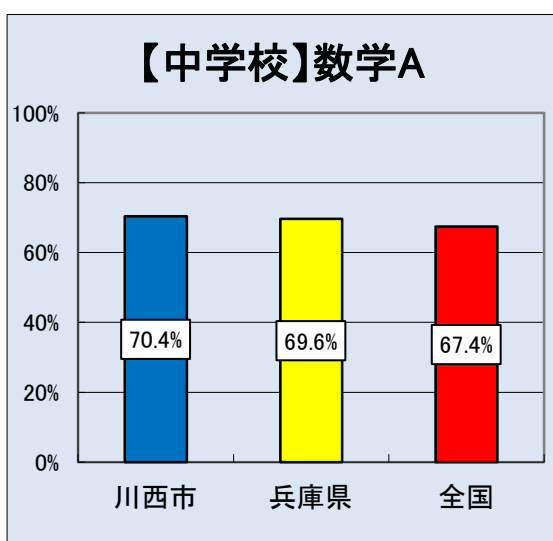
◇ (A) 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すなど、古典の内容を捉えることができる。

古典の学習の際には、古典の原文を読むだけでなく、現代語訳を読んで内容を理解し、古典の文章に表れたものの見方や考え方に触れることが大切です。また、ITC機器(音声や映像メディア等)を活用したりすることにより、現代の生活と比較しながら古典の世界に親しむ学習活動を行うことも考えられます。

【中学校数学】

①教科全体の平均正答率

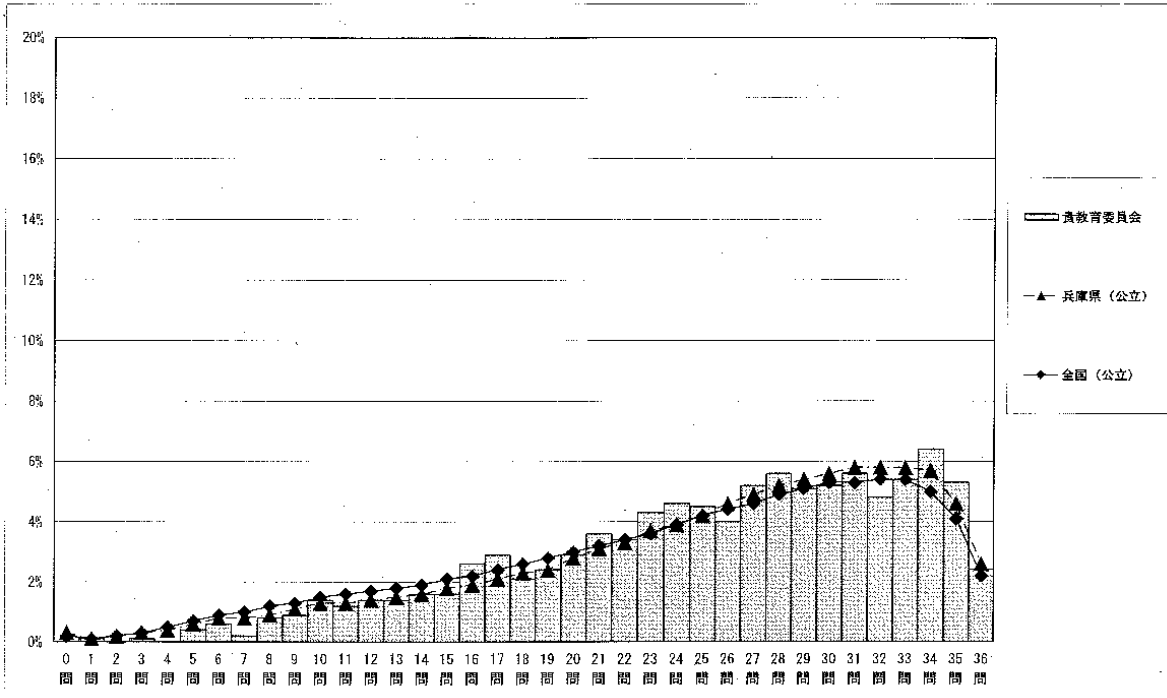
川西市の平均正答率を全国と比較すると、数学A（知識）は、3.0ポイント高く、数学Aは良好であるといえます。数学B（活用）は4.1ポイント高く、数学Bは良好であるといえます。



②度数分布図

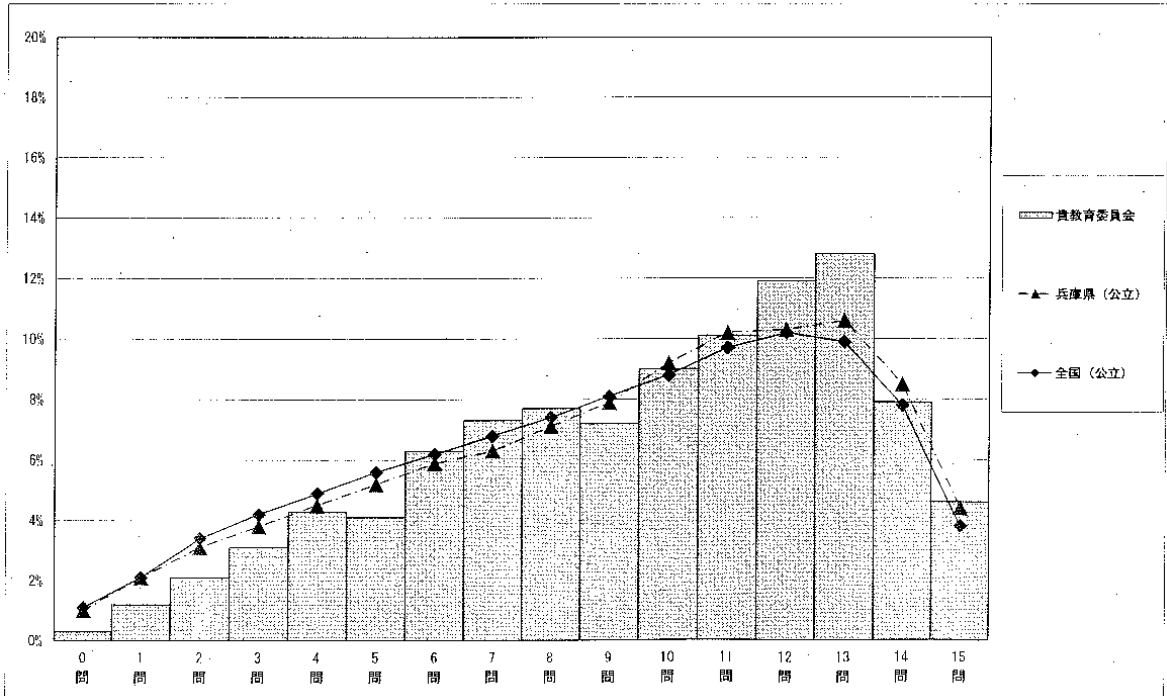
数学 A

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



数学 B

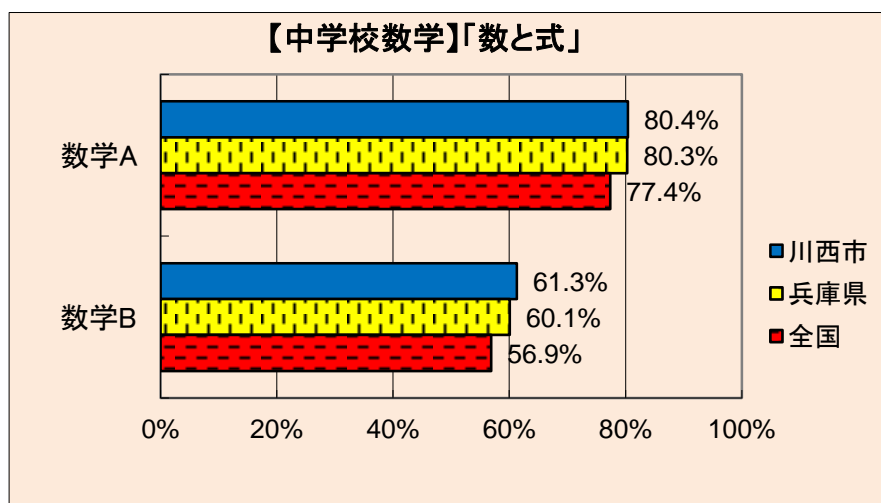
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



③領域・事項別平均正答率

◇：概ね理解している内容 ◆：課題のある内容 記号は、A：算数A B：算数B

「数と式」（数学A：12問、数学B：3問）



川西市の「数と式」領域の平均正答率を全国と比較すると、**数学A（知識）は、3.0ポイント高く全国と同程度という結果です。数学B（活用）は、4.4ポイント高く全国と同程度という結果です。**

◇（A）正の数と負の数の四則計算をすることができる。

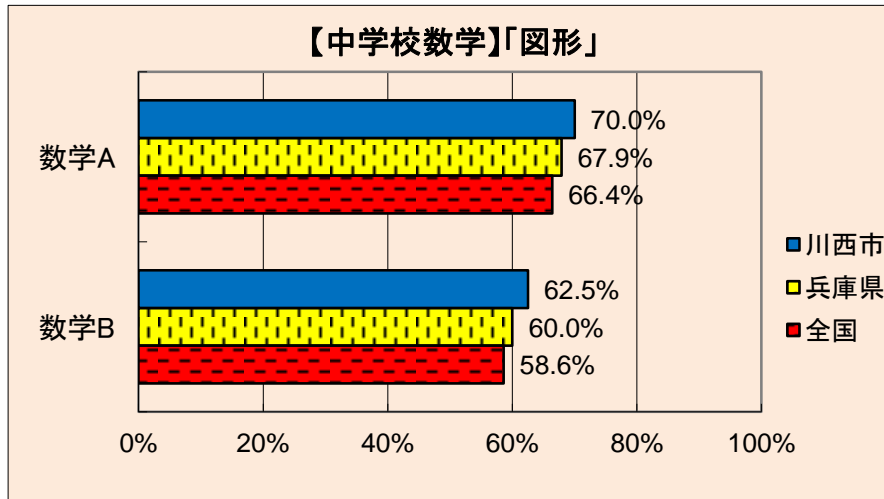
◇（A）文字式の計算とその利用・方程式の解き方とその計算をすることができる。

正負の数を含む四則計算、文字式の計算や方程式の解き方は、相当数の生徒が理解しています。その中で、指数を含む計算「 $2 \times (-5^2)$ 」と数量の大小関係を不等式に表すことに少し課題が見られました。「 $2 \times (-5^2)$ 」を「50」と解答しています。これは、 -5^2 を $(-5) \times (-5)$ と計算したためです。 $(-5)^2$ と (-5^2) が異なることを理解することが大切です。不等式では「以下」と「未満」の意味を理解することが大切です。

◆（B）事柄が成り立つか成り立たないかを判断し、説明することができる。

予想された事柄が成り立つか成り立たないかを判断し、その根拠の理由を説明することに課題があります。しかし、全国との平均正答率を比較すると、高い結果です。昨年の課題を踏まえ、授業の中で、文字式を用いたり反例を挙げて根拠を説明する活動を取り入れる意識が、生徒の理解に結び付いています。今後も、考える場面、伝え合う場面を設定することを大切にしていきます。

「図形」(数学A：12問、数学B：5問)



川西市の「図形」領域の平均正答率を比較すると、**数学A (知識) は、3.6ポイント高く全国と同程度という結果です。数学B (活用) は3.9ポイント高く、全国と同程度という結果です。**

- ◇ (A) 線対称な図形・作図・回転移動について理解することができる。
- ◇ (A) 空間図形・平面図形の基本的な性質を理解することができる。

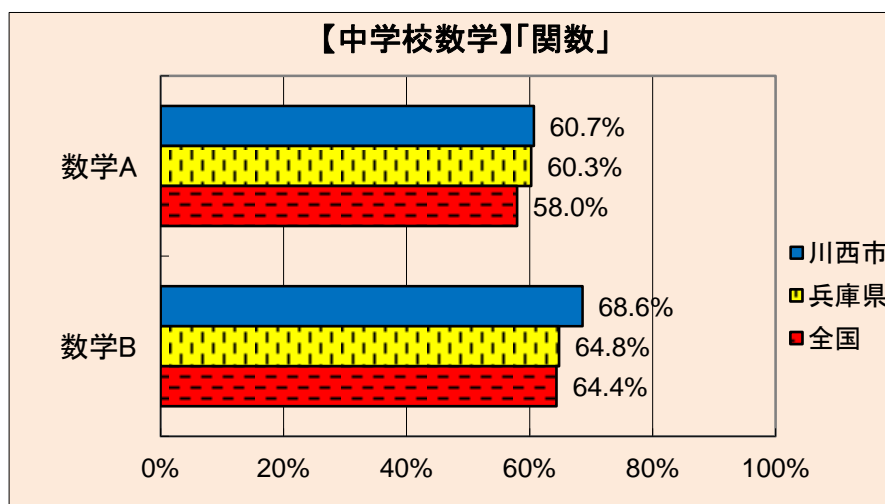
空間における直線や平面の位置関係や空間図形・平面図形の基本的な性質については、多くの生徒が理解しています。「図形」領域の学習においては、具体物を用いた観察や操作等の算数的活動を行うことが効果的であり、実感を持って理解していくことを継続していきます。

- ◆ (B) 構想を立てて証明し、証明を振り返って考えることができる。

「図形の性質を、構想を立てて証明することができる」に関する本市平均正答率は、46.0% (全国比+6.6)、また、「ある条件の下で、証明を振り返って考え、事象を用いることができる」に関する本市平均正答率は 25.6% (全国比+2.3) です。

証明を書くことができるようにするために、証明を構想する活動を取り入れることが大切です。まず、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにすることです。次に、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見い出したりすることです。このように証明の方針を立てる学習活動が大切です。また、発展として、与えられた性質を証明するだけでなく、条件を変えたり証明を読んだりする活動を通じて、新たな性質を見いだすことができるという学習活動を取り入れることで、活用力を身に付けられるように指導することも重要です。

「関数」(数学A：12問、数学B：5問)



川西市の「関数」領域の平均正答率を全国と比較すると、数学A(知識)は、2.7ポイント高く、全国と同程度という結果です。数学B(活用)は4.2ポイント高く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 比例・反比例の関係を式に表し x の値から y の値を求めることができる。

x の値から y の値を求めることは、多くの生徒が理解しています。関数の意味や反比例の意味を問う設問の本市平均正答率がやや低いことから、関数の関係を式に表したり x の値から y の値を求めるという計算技術の向上と併せて、関数の意味について理解が深められるように指導することが重要です。

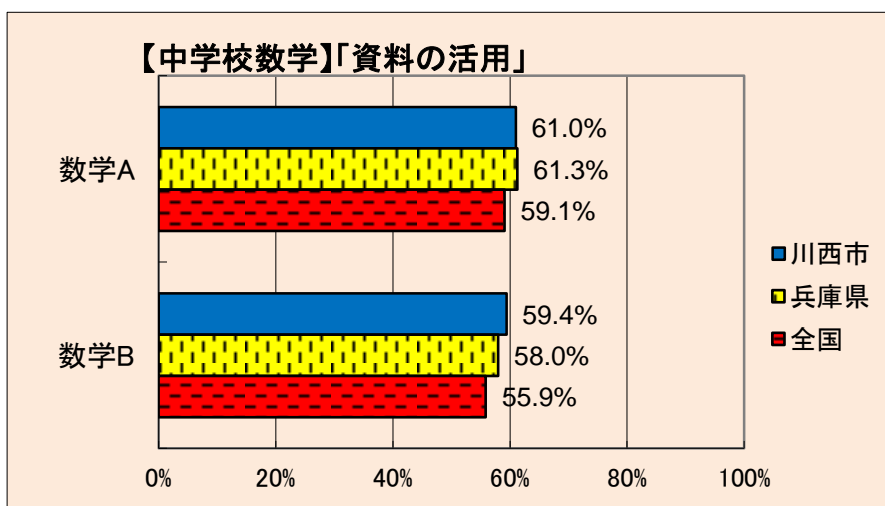
◇ (A) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。

◆ (B) 事象について関数を用いて解釈し、問題を解決する方法を説明することができる

「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」ことについて、本市平均正答率は91.3%(全国比+3.8)であり、与えられた情報を分類整理することは理解しています。

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにする力を養うことが大切です。その際に、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について説明する場面を設定することが考えられます。与えられた情報を分類整理する力は定着してきているので、数学的な表現を基に、解の導き方を説明する活動を、各学年各領域において取り入れていくことが大切です。

「資料の活用」(数学A：4問、数学B：2問)



川西市の「資料の活用」領域の平均正答率を全国と比較すると、数学A（知識）は、1.9ポイント高く、全国と同程度という結果です。 数学B（活用）は3.5ポイント高く、全国と同程度という結果です。

◇ (A) 確立の意味を理解している。

多数回の試行の結果から得られる確率の意味の理解を問う設問に関して、本市平均正答率は80.6%（全国比+4.0）であり、多くの生徒が理解しています。確率を求めることができるようにするためには、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る全ての場合の数とその事柄が起こり得る場合の数を正しく数え上げられるようにすることが大切です。

◇ (B) 資料からわかる情報を分類整理することができる。

「資料からわかる情報を分類整理する」ことを問う設問に対して、川西市の平均正答率は84.9%（全国比+5.2）であり、多くの生徒が理解しています。

◆ (A) ヒストグラムにおいて、相対度数を求めたり中央値の意味を理解することができる。
度数分布表から相対度数を求めること、ヒストグラムにおいて中央値の意味を理解することができる。

目的に応じてデータを収集して整理し、資料を代表する値（平均値、中央値、最頻値など）について考察しながら資料の傾向を読み取る活動の充実が必要になります。

この活動を通して、代表値の必要性と意味について、ヒストグラムと関連付けながら理解できるようにすることが大切です。活動例としては、学級の生徒の通勤時間やスポーツテストの記録などについて、実際のデータを収集して整理し、ヒストグラムに表してデータの散らばりの様子を読み取る活動を通じて、平均値、中央値、最頻値などの代表値の意味を洗える場面を設定することが考えられます。また、分布が非対称であったり、極端にかけ離れた値があったりすると、平均値はその値に強く影響を受けるので、中央値や最頻値を用いるという意味と活用の仕方を関連させられるように指導する場面の設定が考えられます。

(6) 過去5回の調査結果の推移

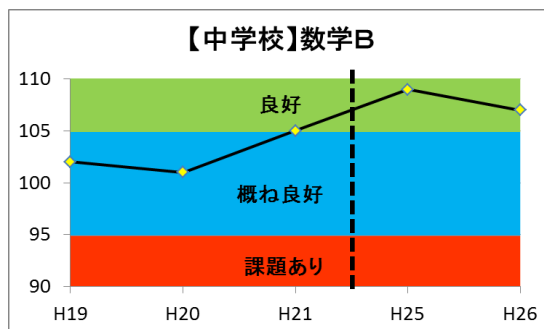
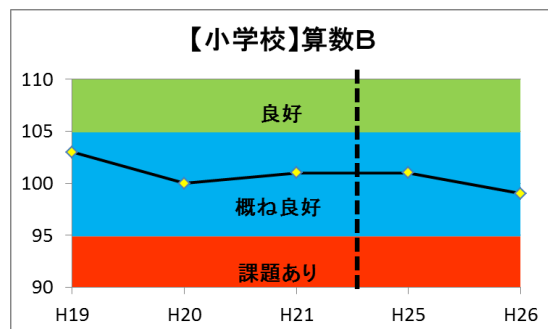
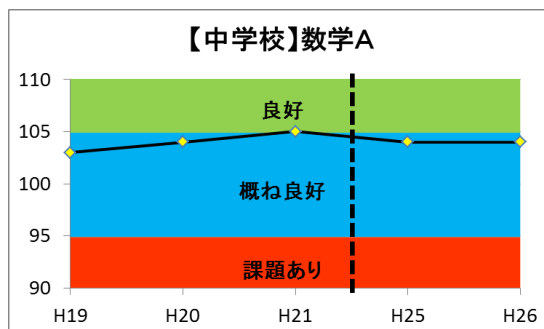
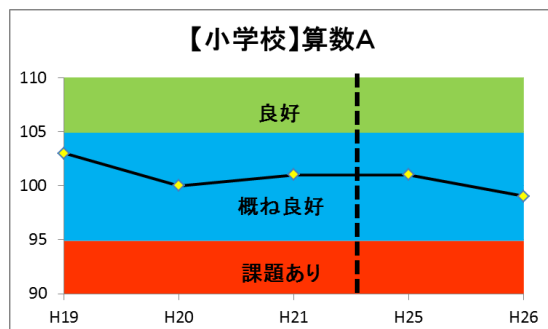
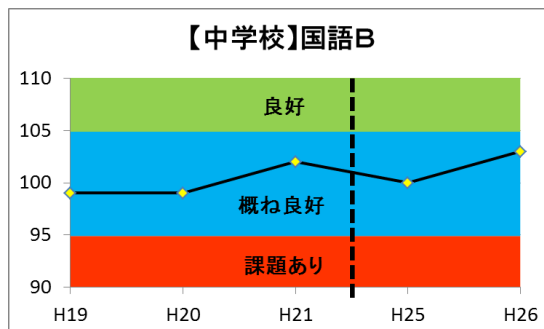
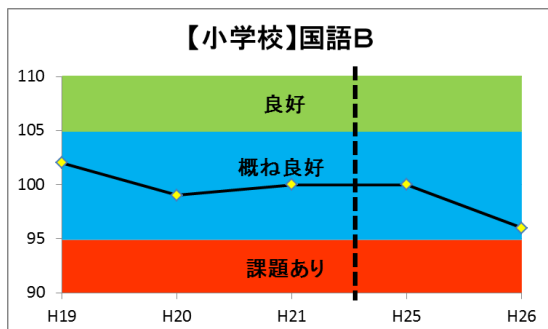
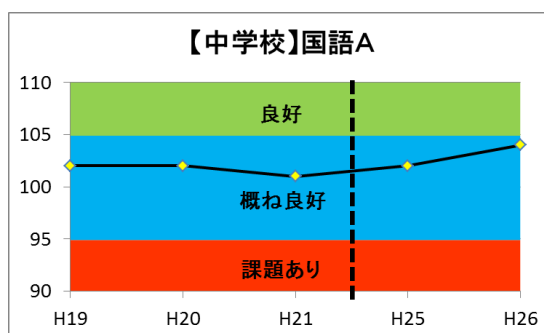
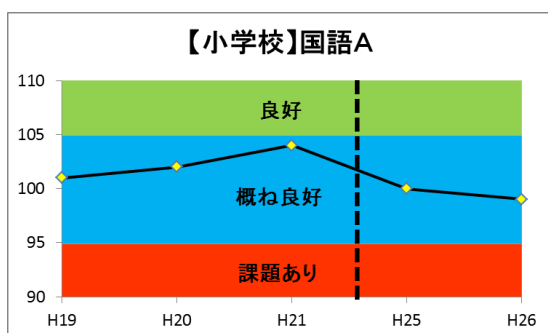
これまで悉皆調査であった5回の全国学力・学習状況調査における川西市の標準化得点から認められる傾向は以下のとおりです。

【小学校】

- 国語、算数のA（知識）・B（活用）ともに概ね良好な状態で推移しています。

【中学校】

- 国語A（知識）・国語B（活用）は概ね良好な状態で推移しています。
- 数学はA（知識）は概ね良好な状態、数学B（活用）は良好な状態で推移しています。



※ 縦軸の数値は、各年度における全国の平均正答率が100になるようにした標準化した場合の得点です。

※ 平成22年度から24年度は、抽出調査もしくは未実施であったため掲載していません。

(7) 平成26年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

学習習慣に対する子どもの意識の変化

	質問事項		H26年度 川西市	H26年度 全国	H21年度 川西市	平成21年度 平成26年度 の比較
1	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日1時間以上、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	小学校	58.4	62.0	58.2	→
		中学校	63.4	67.9	65.9	↘
2	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	小学校	52.3	61.0	48.1	↗
		中学校	42.7	46.6	30.6	↗
3	家で学校の宿題をしていますか	小学校	97.4	96.5	97.4	→
		中学校	90.6	88.2	81.4	↗
4	家で学校の授業の予習をしていますか	小学校	35.3	43.2	32.5	↗
		中学校	31.9	34.2	34.3	↘
5	家で学校の授業の復習をしていますか	小学校	42.2	54.0	34.5	↗
		中学校	38.3	50.4	29.5	↗

「家で、自分で計画を立てて勉強している」「予習している」「復習している」については、平成21年度と比較して、その割合は良くなってきていますが、全国と比較するとまだ低くなっています。「自主学習ノートの活用」「週末課題」「きんたくん学びの道場」等、今後も発達段階に応じた自主学習の推進に努めていくことが重要です。

生活習慣に対する子どもの意識の変化

	質問事項		H26年度 川西市	H26年度 全国	H21年度 川西市	平成21年度 平成26年度 の比較
1	朝食を毎日食べていますか	小学校	96.4	96.0	95.5	→
		中学校	94.0	93.5	92.5	↗
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小学校	76.3	79.2	71.1	↗
		中学校	73.2	74.1	69.6	↗
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小学校	90.6	90.9	89.0	↗
		中学校	92.4	92.1	90.2	↗

早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣については、その重要性はこれまでとも言われてきており、学力との相関関係が高いという結果が見られます。

川西市の児童生徒の基本的な生活習慣については、各家庭でのご理解・ご協力及び学校における生活指導等によって、良好な状態が続いており、今後も継続していくことで学力の維持・向上が見込まれます。

テレビゲームで遊ぶ時間や、携帯電話・スマートフォンの利用時間については、いずれの教科・問題でも、長くなるほど平均正答率が低くなる傾向がみられます。メディアとの付き合い方を考えていく必要があります。

社会で起こっている出来事に関する関心に対する子どもの意識の変化

	質問事項		H26年度 川西市	H26年度 全国	H21年度 川西市	平成21年度 平成26年度 の比較
1	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	小学校	55.0	62.9	42.9	↗
		中学校	49.5	55.6	19.8	↗
2	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	小学校	77.9	84.7	61.8	↗
		中学校	77.7	82.1	63.6	↗

地域や社会で起こっている問題や出来事に対する関心の割合が向上しています。発達段階に応じて時事問題をとらえたり、学校において新聞を読んだりする機会の提供など、学校と家庭が一体となり支援することが重要です。

自尊感情・道徳性に対する子どもの意識の変化

	質問事項		H26年度 川西市	H26年度 全国	H21年度 川西市	平成21年度 平成26年度 の比較
1	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	小学校	93.7	94.4	94.2	→
		中学校	93.5	93.9	92.9	→
2	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	小学校	93.1	94.4	91.0	↗
		中学校	94.8	95.3	93.2	↗
3	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小学校	96.7	96.4	93.2	↗
		中学校	93.4	93.4	89.3	↗
4	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小学校	93.2	94.0	94.2	→
		中学校	93.0	94.0	89.3	↗
5	学校のきまりを守っていますか	小学校	86.1	90.5	84.8	↗
		中学校	94.0	93.0	85.5	↗

自尊感情や道徳性に関しては、肯定的な回答が高い状態で推移しています。子どもたちどうしの関わりを大切に、体験型学習を通して、自尊感情を育み、主体的に問題解決していけるよう今後も取り組みを充実、継続していきます。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている割合も、平成21年度より高い結果となっています。「いじめ防止基本方針」の策定等、児童生徒が安心した学校生活を送ることができるよう、今後も取り組みを継続していきます。

主な取り組みについて

- 小学3年生「環境体験学習」、4年生「里山体験学習」、5年生「自然学校」、6年生「修学旅行」、中学1年生「わくわくオーケストラ」、中学2年生「トライやる・ウィーク」、中学3年生「修学旅行」といった体験型学習の実施

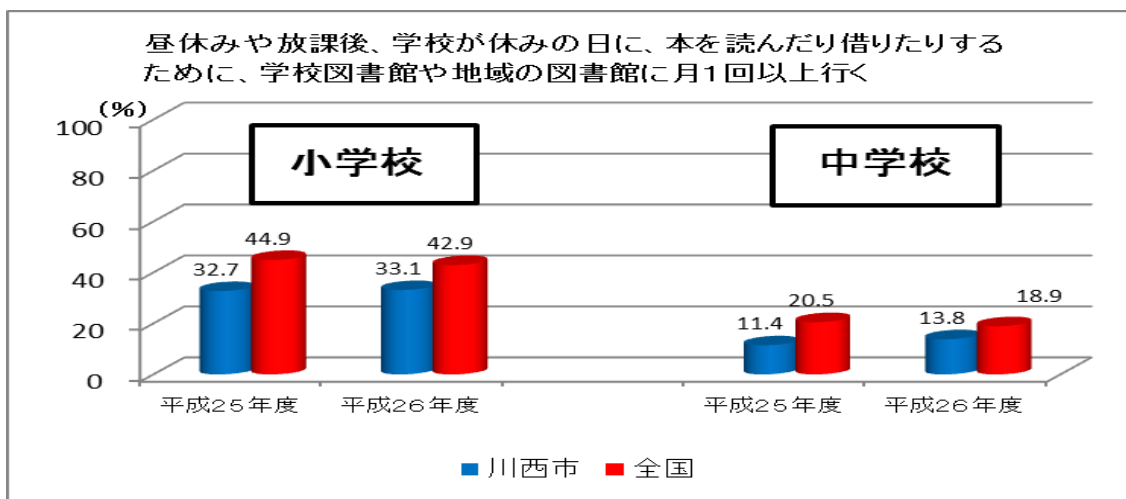
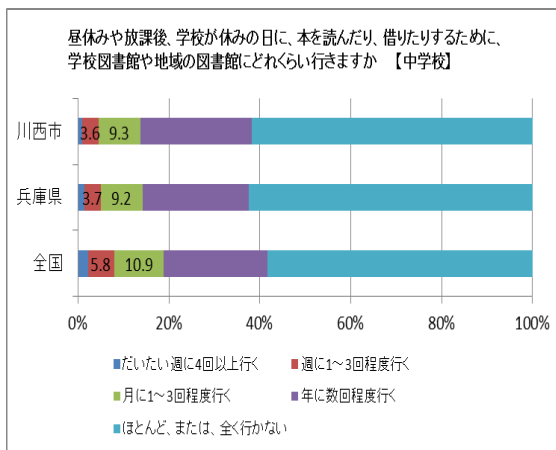
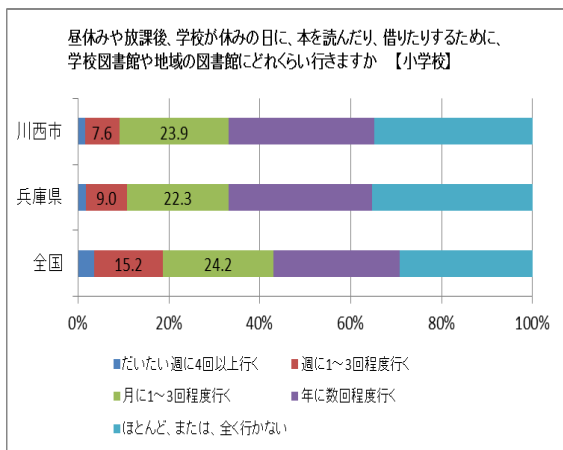
○ 各種行事における成功体験、問題解決型の授業実践等の充実

今後も、子どもたち同士が相談し、課題解決していきけるような主体的な取り組みになるように充実を図っていきます。

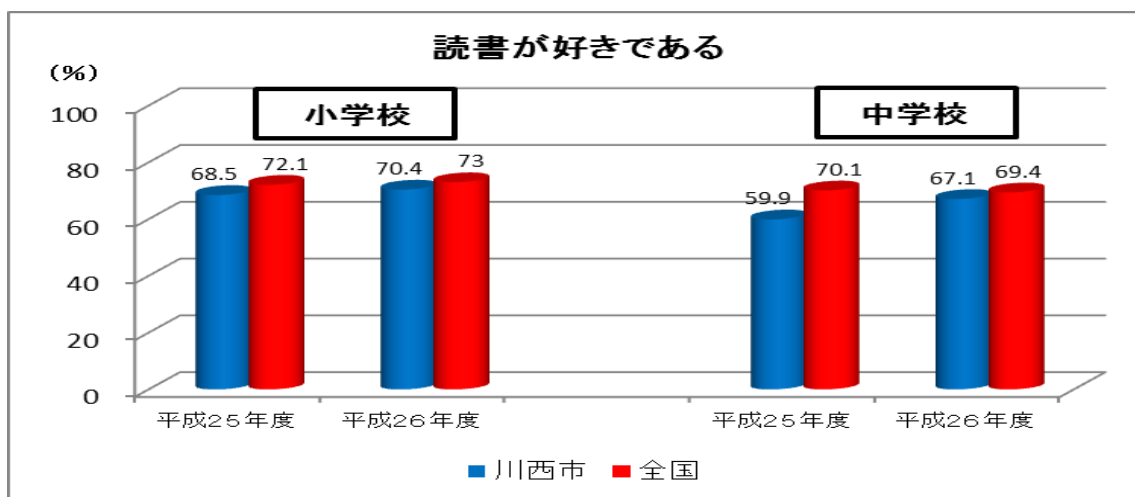
各家庭においては、子どもたちの発達状況に応じた家庭内での役割、実体験を伴う活動等、子どもたちが主体となって活動できることを考えていくことが大切です。

(8) 平成25年度からの取り組みの成果と課題

本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館に月1回以上行く。
(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



質問事項	H26年度	H26年度	H21年度	平成21年度 平成26年度 の比較	
	川西市	全国	川西市		
1 読書は好きですか	小学校	70.4	73.0	68.9	↗
	中学校	67.1	69.4	60.3	↗



教育委員会・学校では、

☆各校に配置している「学校司書」の活用による学校図書館の充実

☆中央図書館と各校の連携を強化し、団体貸し出しや連携行事などの充実などに取り組み、児童生徒の読書環境の整備をすすめてまいりました。また、学習タイムなどを活用して、読書の時間を確保する学校も増えてきています。

平成26年度全国学力・学習状況調査結果より、学校図書館や地域の図書館を月1回以上利用する割合は、小学校で33.1%、中学校で13.8%となりました。読書環境整備、学校図書館司書・図書ボランティア・司書教諭との連携による読書指導、中央図書館との連携強化により、昨年度より読書をする児童生徒の割合が増加しており、今後も引き続き読書指導の充実に取り組みます。

家庭においては、読書をする時間を家庭で決めることや同じ本を読んで感想や内容について自分の考えを話し合うなど、ともに読書を楽しむ曜日や時間をつくってみることが大切です。

(9) 今後の取り組みについて

一人ひとりの子どもたちが、自分の個性や能力を十分に発揮し、その将来をたくましく切り拓いていくためには、将来の夢や目標を大きく持ち、それに向かって「学び」を進めていくことが大切です。子どもたち自身が「なぜ学ぶのか、何のために学ぶのか」という「学びの意義」を見いだしたうえで、「学び」も含めた学校生活を有意義に過ごしてほしいと考えています。

今、変化の激しい時代を生きていかなければならない子どもたちに、「生きる力」をバランスよく育成することが求められています。

「生きる力」とは、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の3つの要素からなる力です。子どもに基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力(確かな学力)、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する

心などの豊かな人間性（豊かな心）、たくましく生きるための健康や体力（健やかな体）などの「生きる力」を育むことです。

川西市においても、主に学校において育むべき能力として「生きる力」の知的側面である「確かな学力」のみならず、「豊かな心」「健やかな体」も含めた全人的な学力を「学力」と定位したいと考えます。

本調査において国は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。調査結果は、川西市の子どもたちの「生きる力」を育むための取り組みを検証するものであり、教育における目的を見失うことなく、わたしたちおとなが子どもたちのために環境を整えることが重要であると考えています。

そのような子どもたちを、学校・家庭・地域が一丸となってしっかり育て、支えていくことがとても大切です。

川西市教育委員会では、全国的な状況との関係及び川西市の経年変化などから、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

- ① 基礎的な生活習慣や学習習慣の定着に向けて、家庭や地域との連携を深めるとともに、学級活動や児童会・生徒会活動などの特別活動、問題行動への迅速かつ的確な対応としての児童・生徒指導の更なる充実
 - ② 基礎的・基本的な学力の定着を図る「学習タイム」に焦点を当て、目的や内容、成果と課題を整理し、その有効性を高める研修と環境の整備
 - ③ 教職員の資質と実践的指導力の向上に向けて、小中学校の教育課程のつながりについての研究や教育実践の交流など、中学校区を核とした研修の実施
 - ④ 小1プロブレム・中1ギャップ、問題行動の解消や学びの連続性に基づく学力向上に向けて、「幼小中連携推進事業」の充実
 - ⑤ 小学校外国語活動・中学校英語の授業の充実に向けて、外国人指導助手の配置
 - ⑥ 言語活動の礎となる読書活動の充実に向けて、学校図書館の積極的な利活用を促進する「読書の日」の設定、「学校司書」との連携、学校図書館ボランティアの活動等の支援
 - ⑦ 子どもたちの自立支援の推進に向けて、川西市独自の体験活動事業の「里山体験学習」や「先輩に学ぼう！」の実施
 - ⑧ 家庭学習の習慣化に向けて、「きんたくん学びの道場」の充実
 - ⑨ 学校における ICT（情報通信技術）の活用及び整備
 - ⑩ 新学習システムによる個に応じたきめ細かい学習指導
- などの方策を推進し、「川西の教育」に示す「めざす人間像」、「5つの基本方針」を実現すべく取り組みます。

学校では、調査結果を踏まえて、「学力向上総合プラン」を策定します。

- ① 「めあて」「見通し」「振り返り」を明確にした「わかる授業」づくりの充実
- ② 基礎・基本の定着に向けた「学習タイム」の充実
- ③ 教職員の指導力向上に向けた「校内研究」の充実
- ④ 学校での学習と家庭学習をつなげる「自主学習」支援
- ⑤ 安心で安全な環境に向けた「授業規律」の確立

- ⑥ 子どもの豊かな心を育むための「言語活動（コミュニケーション能力）」、「道徳教育」、「体験活動」の充実
などの方策を位置付け、全職員一丸となって、児童生徒への教育指導の改善に取り組めます。

地域におきましては、社会全体で子どもたちを育てる環境づくりを期待します。

- ① 地域の人材や自然・文化などを活用した「総合的な学習の時間」や「体験学習」の充実
- ② 学校施設等を活用した「放課後子ども教室」等、地域全体で子どもたちの学びを支える環境の整備
- ③ 子どもたちの自立支援の推進に向けた「仕事」のやりがいや楽しさを伝える「トライやる・ウィーク」などを核としたキャリア教育の展開
- ④ 「ふるさと川西」への帰着意識向上に向けた伝統的な行事の「地域的な行事」への参加・協力

など、学校教育の中だけでは実現することができない側面の支援をご協力いただきたいと考えています。

家庭におきましては、子どもたちの豊かな情操を育む基礎的な資質や能力の育成を期待します。

- ① 子どもたちの健やかな育ちに向けた基本的な生活習慣の確立
- ② 「家庭学習ハンドブック」等を活用し、自ら学び、考える力を育む家庭学習習慣の定着
- ③ 言語活動、豊かな人間関係の礎となる家庭での読書活動など、家族で一緒に取り組むことのできる活動の促進

など、子どもたちとともに取り組んでいただきますようお願いいたします。できたことをほめて、子どもたちのやる気を高め、主体的な行動を促すことは、自立した人間に育つためにも重要な要素です。

ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。